

事業コード	H19-建-継-14		区 分	国庫補助 県単独
事業名	総合流域防災事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2515
路線名等	一級河川 福士川		担当課長名	萩野 敏明
箇所名	鹿角市花輪下夕町		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	H14 ~ H32 (19年)		総事業費	31.3億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	延長L=1,258m 計画高水流量:100m <sup>3</sup> /sec(1/10)						
事業の立案に至る背景	福士川は、鹿角市の中心である花輪の市街地を横断している一級河川である。福士川は勾配が急かつ河床が堤内地より高くなっており、明治36年・昭和38年・昭和50年・昭和55年に水害を受けており、特に昭和38年の水害は210戸の家屋浸水が発生し、戦後最大の規模のものであった。これを基に抜本的な治水事業として昭和60年より米代川への福士川放水路に着手し、当該事業は平成12年に完成している。しかし、治水上の最重要区間である市街地内の改修は未着手であることから、地元より強い要望を受け、第 期工事として整備するものである。						
事業目的	洪水被害の減少として、戦後最大の被害が発生した、昭和38年の洪水規模相当の流量に対応した断面を確保し、浸水被害を防止する。 地元住民が水に親しめるような環境に配慮した河づくりを行う。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	3,128,000	3,128,000	0			
	経費内訳	工事費	1,022,900	1,022,900	0		
		用補費	1,754,300	1,754,300	0		
		その他	350,800	350,800	0		
	財源内訳	国庫補助	1,564,000	1,564,000	0		
		県 債	1,407,600	1,407,600	0		
その他		0	0	0			
一般財源	156,400	156,400	0				
事業内容	築堤、河道掘削、護岸工、橋梁工、用地補償費	築堤、河道掘削、護岸工、橋梁工、用地補償費			H16評価時より、事業費の変更はありません。		
事業の進捗状況	全体計画 31.3億円 平成18年度末投資額 2.9億円 進捗率 9.2%						
事業推進上の課題	移転家屋が多いことから支障物件の移転交渉等には、時間を要する。						
関連する計画等	あきた21総合計画の中で、快適で安全な生活を実現するため、災害に強い県土づくりを目指し、河川改修等の推進が位置づけられている。						
情勢の変化及び長期継続の理由	特になし						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率					
	指標式	河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	44.7 %		データ等の出典	河川砂防課		
	実績値 b	44.6 %					
達成率 b/a	99.8 %		把握の時期	平成19年 3 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	福士川の特徴として、河幅が狭くかつ急勾配（氾濫時の河川水の勢いが激しい）であり、河床が堤内地より高い（氾濫しやすく、水が引かない）天井河川であることから、過去より水害発生時には家屋や農地に大きな浸水被害が発生しており、早期の完成が望まれている。	30点
緊 急 性	河川未改修の区間については、特に流下能力が低く川幅も狭少かつ天井河川であるため洪水発生の危険度が高く、過去には浸水面積118ha、浸水家屋210戸という水害が発生している。	15点
有 効 性	手段の妥当性 指定区間における河川改修は河川法により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。また、本地区において洪水被害を低減させるためには、河道改修が妥当である。 整備効果 改修を実施することにより、急勾配が緩和されかつ河床が堤内地より低くなるため、洪水時に河川水が安全に流下させることが出来るので、有効性は高い。	20点
効 率 性	費用対効果 事業の費用対効果は7.1であり非常に効果が高い。 効率性（コスト縮減） 既設護岸を再生材料として有効活用する。 発生残土を他工区へと流用処分する。 排水樋管の統廃合を実施する。	15点
熟 度	（地域の状況） 地元の改修に関する意向が強く概ね協力的であり、早期に河川改修を進める必要がある。 （環境対策） 工事に際しては、生態系に配慮した護岸ブロックを使用し、河川の利用が見込める区間については、階段ブロック等の設置により親水性の確保を図る。	13点
判 定	ランク ( ) 地元からの要望が高く、かつ洪水被害の大幅な低減が見込まれ、「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	93点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。
--------------------------

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。
----------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード(H19-建-継-14 )  
箇所名 (鹿角市花輪下夕町 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況					
	浸水戸数	50戸以上 49~10戸 10戸未満	10 7 3	10		
	浸水面積	60ha以上 59~10ha 10ha未満	10 7 3	10		
	重要な公共施設	3施設以上 2~1施設 無し	5 3 0	5		
	整備計画の策定					
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み 協議中であるが特段問題ない 策定に着手していないが予定がある 予定無し	5 3 1 0	5		
	計			30	30	
	緊急性	災害発生危険度				
		改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満 40~59% 60%以上	10 7 5	10	
		秋田県水防計画				
重要水防地域		評定基準区分A 評定基準区分B	5 3	5		
計				15	15	
有効性	上位計画への貢献度					
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 0	5		
	河川整備の有効性					
	安全度	災害防止等効果が発現する 災害防止効果は現状と変わらない	7 0	7		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる 親水性は現状と変わらない	5 0	5		
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域 地域開発の計画がある 予定無し	3 1 0	3		
	計			20	20	
効率性	事業の投資効果					
	費用便益比(B/C)	1.0以上 1.0未満	5 0	5		
	事業実施コストの縮減					
	該当項目数	3項目以上 2項目 1項目 無し	5 3 1 0	5		
	当初計画との比較					
	当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 0	5		
計			15	15		
熟度	環境との調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	地元との合意形成の状況					
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	5 3 1	3		
	事業の進捗状況					
進捗率	計画より進捗している 概ね進捗(90~100%未満) 計画より遅れている(90%未満)	10 5 3	5			
計			20	13		
合計			100	93		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度が高い	80点以上		
	優先度が低い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		